

【 . 指標以外の観点からの評価】

取組	指標以外の観点からの評価
	・優れた資質を有するジュニアアスリート30人を選考会により決定した。
	・県選抜選手・団体の重点強化と強化拠点校等への支援を行ったことにより、全国大会において146人が入賞した。 ・パラリンピック出場が期待される優秀選手の海外遠征経費に対する支援を行ったほか、障がい者スポーツ体験会等を88回実施し、障がい者スポーツの競技力向上と普及啓発を図った。
	・指導者の資質と指導力の向上を図るための研修を実施し、67人が参加した。
	・強化拠点校(団体)へのスポーツ医科学サポートを12競技で延べ28回実施した。

【 . 施策を構成する主要事業】

取組	事業名(29年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	30年度の方向性	
	チーム大分強化事業	169,596	C	継続・見直し	271
	障がい者スポーツ選手育成・強化支援事業	14,513	A	終了	84

【 . 施策に対する意見・提言】

<p>平成29年度大分県競技力向上対策本部第2回本部委員会 (H30.2) ・トップアスリートへの就職支援は効果的であり、今後も力を入れて継続する必要がある。</p>	
---	--

【 . 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・選考会の実施により優れた資質を有するジュニアアスリートを発掘し育成することで、競技力の維持・向上を図る。 ・強化拠点校(団体)の競技力を分析した上で強化ランクの見直しを行い、支援の重点化・効率化を図る。 ・優秀選手のメディカルチェックや強化拠点校(団体)へのトレーナー配置を支援するなど、スポーツ医科学を活用したサポート体制の充実を図る。 ・優秀指導者を指定し、指導活動を支援するとともに、トップレベルの指導方法を共有・継承できる体制づくりを推進する。 ・県内企業とのマッチングによる就職支援を引き続き実施するなど、トップアスリートが県内で安心して競技を続けられる環境を整備する。 ・全国大会等での活躍が見込まれる競技(14競技)を「シンボルスポーツ」と位置づけ、トップチーム招聘やアドバイザーコーチの配置など効果的な育成・強化を行い、競技力の向上を図る。 ・ラグビーワールドカップ大分開催を見据え、児童・生徒へのラグビーの普及啓発や指導者の育成等を実施する。 ・大分国際車いすマラソン大会や障がい者スポーツ大会の開催などにより競技スポーツの振興を図るとともに、2020年東京パラリンピックを見据え、活躍が期待される選手への支援強化を行う。 ・障がい者スポーツ体験会等を通じた障がい者スポーツの裾野の拡大を図り、2020年東京パラリンピックに向けた機運醸成を図る。